

予報期間 7月22日から7月28日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 24日から28日にかけて、高気圧がオホーツク海から千島近海へ移動する。また、太平洋高気圧は日本の南へ張り出す。低気圧が日本海から日本の東へ進み、前線が東北地方付近にのびる。

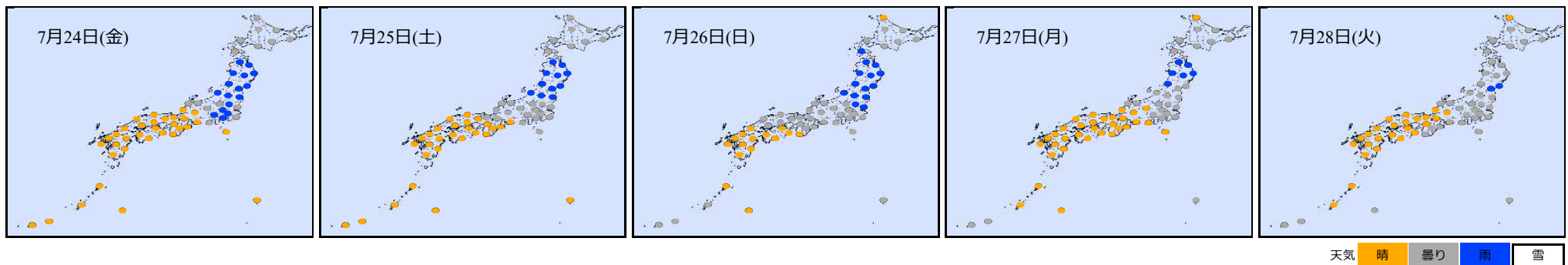
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 東日本と西日本では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

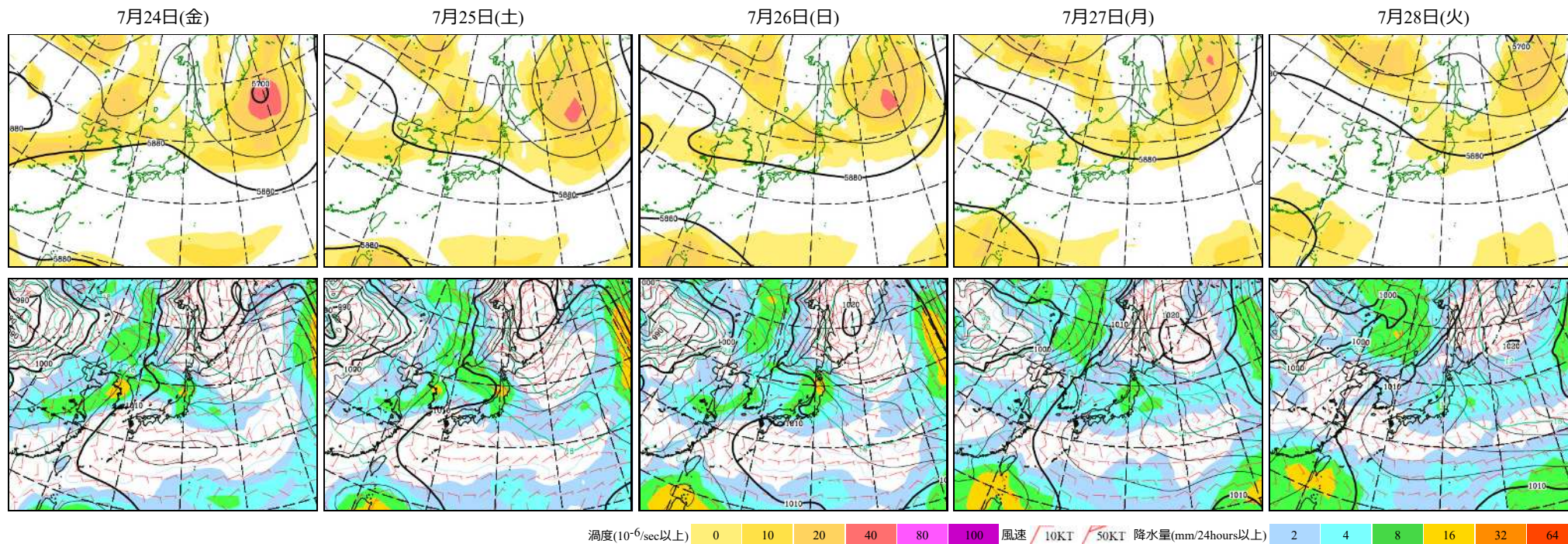
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

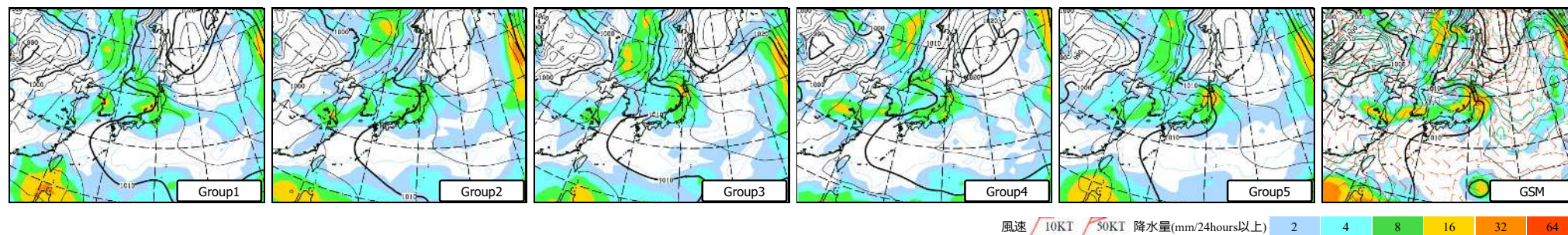


- 北海道地方は雲が広がりやすいが、26日は雨の降る所がある。
- 東北地方は、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本は、曇りや晴れの日が多いが、24日から26日にかけては雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れる日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は上空のトラフが明瞭になった。サハリン付近を進むリッジは25日にかけて弱まり、28日にかけて遅くなった。地上は、オホーツク海高気圧が強まった。日本海から北日本付近を通過する前線や低気圧は、26日は明瞭化し、以降は通過位置が南下した。
- 26日から28日にかけて、低気圧が日本モデルとNCEPでは日本海から三陸沖へ、ECMでは間宮海峡付近へ進む予測。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報はおおむね最新のENSを基に考えるが、降水域は海外モデルも参考にする。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。